

## 宮城県蔵王エリアにおける持続可能な地域づくり戦略 Sustainable Community Development Strategies in Zao Area of Miyagi Prefecture

○相澤国弘\* 宇田川敬之\* 宮崎義久† 千葉克己† 郷古雅春†

Aizawa Kunihiro Udagawa Noriyuki Miyazaki Yoshihisa Chiba Katsumi Goko Masaharu

### 1. はじめに

宮城県蔵王エリアにおいて、「蔵王福祉の森構想」を主軸としたまちづくりが行われている。蔵王連峰や温泉などの観光資源や、空き別荘等を活用した農泊を提供しており、近年は「ディスカバー農山漁村の宝」の選定や日本版「アルベルゴ・ディフーズ」の認証を受けるなど、農山村地域の自然、食、人的資源を活用した取組として注目されている。ここではその概要を紹介する。

### 2. 蔵王福祉の森構想

「蔵王福祉の森構想」とは、宮城県蔵王町における医療・福祉を切り口にしたまちづくり構想として2013年から始まった。この構想は「母なる農村を守りながら、高齢者も若者も、障害のある者も無い者も、誰しものが安心して暮らせるまちづくり」、「役割を果たすことが、生きる力の源と捉え、誰しものが生活の中でその人に相応しい役割



図1 蔵王福祉の森構想委員会構成図

を果たせるまちづくり」を理念として、これに賛同する組織・個人が参加する民間主体の構想委員会により策定された。本構想を実行・実現していくために、①地域づくりの理念・指針の策定、②地域ネットワーク・組織づくり、を行いその上で、③持続可能なコンテンツの創出（今あるモノや事柄を上手に利用し、収益性のある持続可能なコンテンツを創り、PDCA サイクルによりアップデートしていく。具体的には、空き別荘の有効利用とテレワークの推進、農泊と地域の文化・歴史の有効活用、再生可能エネルギーの活用、耕作放棄地・遊休地の有効活用、里山景観と持続可能な農業を組み合わせた観光振興）、④地域づくりを地域内や他地域に広めていく活動、⑤新たな連携・コーディネート、に取り組んできた。単に高齢者施設を整備するのではなく、「高齢者が住みたいまち」をつくり、「若者や女性が安心して働くことができる場所があり、働きがいがあるまち、働く人が住みたいまち」を目標として、高齢者福祉と雇用・産業を結び付けた取組を行っている。活動は福祉に留まらず、農泊、農福連携、インバウンド誘致やそのためのコンテンツ作りにまで広がっており、例えば空き別荘（別荘のオーナーが使用しないときに貸し出す）の清掃、シーツ交換、リネンサプライにおける地元雇用や、障害者及び高齢者の積極的雇用、農産物直売所で売れ残った野菜を地域の福祉施

\* 株式会社ガイア GAIA Co., Ltd.

† 宮城大学事業構想学群 School of Project Design, Miyagi University

キーワード：農村振興，農泊，農福連携

設の給食センターで全て買い取る農福連携など、地域内のサーキュラーエコノミーともいえる取組となっている。また近年は蔵王エリアを核とし、周辺の市町にも広がりを見せている。

### 3. 空き別荘の有効活用とテレワーク

構想の中で農泊の核となる取組が空き別荘等の活用である。中心となる蔵王山水苑には現在約 650 棟の別荘があり、うち 51 棟がオーナーの使用しない空き日時に貸別荘として貸し出しを行っている。現在稼働中の宿泊棟数は申請準備中も含め蔵王町、川崎町、村田町、丸森町、白石市、仙台市で合計 62 棟となっており、このほかに、20 棟の未利用建物が住まい、レストラン、グループホームなどとして移住者を中心に利用されている。これらはテレワークにも活用されており、また、陶芸ワークショップ、地域の文化・歴史に触れることのできる新たな体験コンテンツの導入、地域の食材を使った新メニューの開発など、コト体験を含めた観光資源も充実しつつある。そのほか蔵王山水苑では、廃温泉を共同足湯やロードヒーティングに転用し、障害者福祉施設の入所者が別荘地の樹木伐採や剪定作業を受託し薪として販売するなど、地域資源の有効利用にも取り組んでいる。

### 4. 蔵王農泊振興協議会における農泊の取組と成果

図 2 に「蔵王福祉の森構想」の構成組織である蔵王農泊振興協議会の構成図を示す。中核団体であり事務局を務める株式会社ガイアを中心に、協議会では蔵王山水苑などの別荘地における空き別荘等の貸出、農産物の直売、農家レストラン、サイクルツーリズム等に取り組んでいる。これまでの取組成果（試算）は、以下のとおりである。

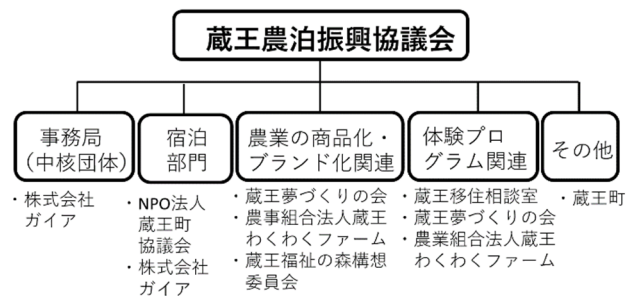


図 2 蔵王農泊振興協議会構成図

○農泊関連売上：500 万円(2018)→3 億 2 千万円(2021)→5 億円(2022)→7 億 2 千万円(2023) 2022 内訳：宿泊・食事等 4 億円, 宿泊者物件購入金額 1 億円

○宿泊者数：695 人(2018)→3 万 8 千人(2021)→4 万 2 千人(2022)→6 万 8 千人(2023)

○新規雇用者数：18 人(2021)→20 人(2022)→50 人(2023)

○農泊振興協議会が関わる移住相談件数 延べ 700 人(2018～2023)

○農泊振興協議会が関わる移住者数 延べ 58 組(2018～2023)

### 5. 今後の取組と課題

蔵王福祉の森構想が目指すのは、環境や状況に左右されることのない「持続可能な地域づくり」である。今あるモノや事がらを収益性のある持続可能なコンテンツとして確立することが課題であり、すでに形成されている組織やネットワークに新たな命を吹き込むことが最も重要である。また、取組の中で浮かび上がった課題も多い。例えば農福連携を進めるには、農作業内容を分解して、各々の作業を障害の程度に合わせてマッチングすることが必要であるが、農業者だけにその負担を負わせるのは現実的でなく、それを専門に担う組織が必要である。「無いものは創る」という考えのもとこれまでも取り組んできており、関係機関と連携し課題解決に取り組むこととしている。